

令和 4 年 6 月 24 日現在

機関番号：82611

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2021

課題番号：18K15522

研究課題名(和文)心因性疼痛の治療と認知機能障害の関連

研究課題名(英文)Association between treatment of psychogenic pain and cognitive dysfunction

研究代表者

松本 純弥(Matsumoto, Junya)

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター・精神保健研究所 精神疾患病態研究部・室長

研究者番号：10635535

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、高齢患者群と高齢健常対照群の比較で右内側眼窩回～直回で有意な血流低下、左楔前部、海馬で有意な血流増加を認めた。全年齢患者群との比較でも同様の結果であった。患者群の内服薬剤量との相関を見ると、各種向精神薬や、オピオイドの投与量と上述の血流変化部位の脳血流は相関を認めなかった。非薬剤投与患者群とHC群の比較では血流低下部位は概ね同様であった。心因性を示す行動・心理尺度(BS-POP)との相関は認めず、人格傾向の尺度との相関も認めなかった。観察された脳血流の変化は疼痛の慢性化とその感情体験に伴う二次的な脳機能変化の可能性が考えられた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

慢性疼痛患者では、両側前頭前野で低下、両側小脳後葉で増加するとの報告や両側背外側前頭前野、両側内側前頭前野、両側前部帯状回背側、右外側前頭眼窩野で低下するとの報告はあるが、精神医学的な視点に基づいた先行研究は乏しい。本研究で対象とした身体表現性障害患者の脳血流変化部位は感情的刺激の処理や感情体験に伴って賦活されることが知られている。そのため疼痛の慢性化に伴う二次的な脳機能変化を示している可能性が示唆された。今回のように集学的に精査を経たうえで専門的に診断を下した身体表現性障害患者を対象にして脳病態を解析した結果は大変貴重である。

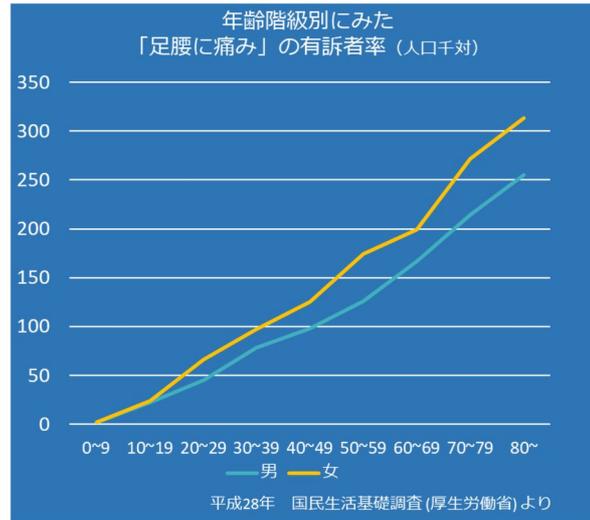
研究成果の概要(英文)：In the present study, a significant decrease in blood flow in the right medial orbital gyrus to the straight gyrus and a significant increase in blood flow in the left precuneus and hippocampus were observed in the older patient group compared to the older healthy control group. The same results were observed in comparison with the all-aged patient group. In terms of correlation with the amount of medications taken by the patient group, there was no correlation between the doses of various psychotropic drugs or opioids and cerebral blood flow in the areas of altered blood flow described above. Comparison between the non-drug-treated patients and the HC group showed that the areas of decreased blood flow were generally similar. There was no correlation with the Behavioral and Psychological Scale of Psychogenicity. The observed changes in cerebral blood flow may be secondary to changes in brain function associated with chronic pain and its emotional experience.

研究分野：精神神経科学

キーワード：心因性腰痛 身体表現性障害 転換性障害 ドパミン モノアミン

### 1. 研究開始当初の背景

高齢化を迎えた日本では認知機能の低下と身体機能の低下が大きな社会問題である。疼痛は一般的身体症状だが、有訴者率の割合は年齢を重ねるごとに増える。身体機能が衰えると腰痛を始めとした疼痛の訴えも増えるが、ストレスが重なった状況では特に疼痛が慢性化して難治となってくる。心因により慢性腰痛が出現する心因性腰痛は認知機能の低下やその他の精神疾患が関与していると推定されるが、その病態は不明なところが多く、治療も難渋することが多い。本研究では心因性腰痛に対する整形外科・精神科リエゾン診療で身体表現性障害と診断された患者を対象に、その病態解明に寄与すべく、疼痛を主症状とする高齢の身体表現性障害患者の脳血流所見を検討した。



### 2. 研究の目的

本研究では心因性腰痛の病態を検討し、バイオマーカーの開発に寄与することを目指す。心因性腰痛の治療現場では患者側は精神神経疾患が腰痛に影響しているという自覚には乏しく、精神科を受診する動機付けが困難で整形外科やリハビリテーションの現場では患者のみならず医療スタッフも苦勞することがある。精神科への紹介を提案しても拒まれたり紹介状を持たせても精神科を受診しなかったり、受診してもすぐに通院を打ち切ったりして、さらに別な整形外科やペインクリニックに通うドクターショッピングを繰り返し、治療に乗りづらい経過の患者も見られる。福島県立医科大学の整形外科と精神科では、両科で診療を継続する整形外科・精神科リエゾン診療体制が整備されており、整形外科から精神科に紹介された時点で患者が感じる「見捨てられ感」を予防し、その後も整形外科のフォローが続くために精神科通院からドロップアウトしてドクターショッピングを繰り返す行動を予防できている。このような診療体制は全国でも稀で、この体制を生かした心因性腰痛の患者群を対象にした研究を実施する。本研究により心因性腰痛に影響する因子を解明することで、治療法の開発への橋渡しが期待できる。

### 3. 研究の方法

難治性の慢性疼痛を有する患者で、福島県立医科大学の整形外科により詳細な器質因子の除外をしたうえで、精神科医も診察し、複数の整形外科医、精神科医及び多職種が参加するリエゾン診療でカンファランスを経て身体表現性障害(F45, ICD-10)と診断された患者を対象とした。診断を満たす高齢患者(66-82歳)で脳

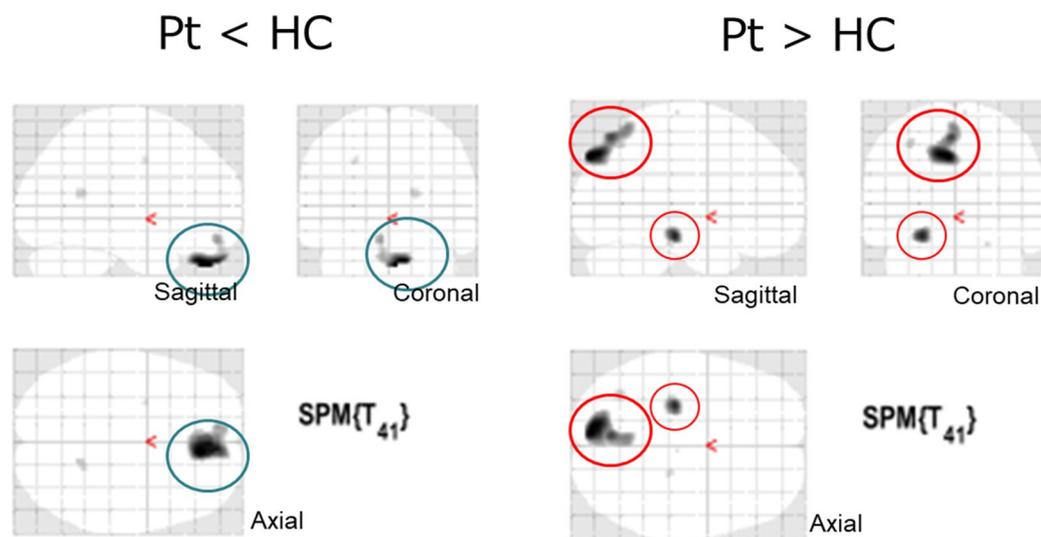
	Sex	Age (Mean±SD)
全年齢患者群 80例	29 males 51 females	15-82 (56.5±17.7)
非高齢患者群 46例	24 males 22 females	15-64 (44.7±14.4)
高齢患者群 (Pt) 34例	5 males 29 females	65-82 (72.3±4.18)
高齢健常対照群 (HC) 12例	6 males 6 females	72-77 (71.2±4.24)

器質的疾患・頭蓋内手術歴、脳血管障害、変性疾患、認知症を有する患者は除外したところ、34例(男性5例、女性29例)となった。年齢を合わせた対照群(72-77歳)は12例(男

性 6 例、女性 6 例)であった。

心因性疼痛患者の臨床評価を実施し、島津 HEADTOME- SET080 により単一光子放射断層撮影 (Single photon emission computed tomography、SPECT) データを取得した ( $^{123}\text{I}$ -IMP SPECT)。臨床指標には各種向精神薬や、オピオイド投与量も確認した。行動・心理尺度としては、特に疼痛に関連する the Brief Scale for Evaluation of Psychiatric Problems in Orthopedic Patients (BS-POP)、精神医学的評価に有用な Minnesota Multiphasic Personality Inventory (MMPI) といった精神医学的臨床指標を確認した。解析は SPM 12 を用い脳血流画像解析を実施した。年齢、性別を共変量とし、有意水準は  $p = 0.001$  とした。

#### 4 . 研究成果



右内側眼窩回～直回で低下

左楔前部、海馬で増加

本研究では、高齢患者群(Pt)と高齢健常対照群(HC)の比較で右内側眼窩回～直回で有意な血流低下、左楔前部、海馬で有意な血流増加を認めた。全年齢患者群との比較でも同様の結果であった。患者群の内服薬剤量との相関を見ると、抗精神病薬、抗うつ薬、ベンゾジアゼピン系薬剤、オピオイドの投与量と上述の血流変化部位の脳血流は相関を認めなかった。非薬剤投与患者群と HC 群の比較では、抗精神病薬 free (n=10)、抗うつ薬 free (n=28)ベンゾジアゼピン系 free (n=12)、オピオイド free (n=26)それぞれで検討し、血流低下部位は概ね同じ傾向であったが、血流増加部位は n が少ない抗精神病薬 free 群、ベンゾジアゼピン系 free 群でははっきりしなかった。MMPI、BS-POP との相関解析では、MMPI のデータが揃っている 30 名で検討したところ、血流変化部位の脳血流との相関は見られず、妥当性尺度の得点が高く解釈に十分注意が必要な患者 5 名を除外して 25 名で検討しても結果は変わらなかった。治療者用 BS-POP のデータが揃う 31 名、患者用 BS-POP のデータが揃う 29 名の相関解析でも血流変化部位の脳血流との相関を認めなかった。

脳血流変化については、慢性腰痛患者で両側前頭前野で低下、両側小脳後葉で増加するとの報告 (Nakamura, 2014) や慢性疼痛患者で両側背外側前頭前野、両側内側前頭前野、両側前部帯状回背側、右外側前頭眼窩野で低下するとの報告 (Honda, 2007) はあるが、精神医学的な視点に基づいた先行研究は少ない。

内側眼窩回～直回が含まれる腹内側前頭前野は、感情的刺激の処理や感情体験に伴って賦活されることが知られている。慢性腰痛患者では可塑的な病態生理学的な変化が脳にあるといわれている (Apkarian AV., 2004)。急性疼痛から慢性疼痛へと変化する過程での脳血流変化や分子・構造的な変化について示唆する先行研究 (Douglas, 2011 など) がある。

本研究では、高齢身体表現性障害患者の脳血流変化を解析し、右内側眼窩回～直回の血流低下を認めたと、同部位に関しては、MMPI や BS-POP といった精神病理学的な臨床所見との相関は認めなかった。身体表現性障害の病態そのものではなく、疼痛の慢性化に伴う二次的な脳機能変化の可能性がある。精神医学的な診断での先行研究は乏しく、今回のように集学的に精査を経たうえで専門的に診断を下した身体表現性障害患者を対象にして解析した結果は貴重である。

疼痛が慢性化する症例には、身体表現性障害の他にうつ病、統合失調症、双極性障害、自閉スペクトラム症など精神疾患の診断を受ける症例が混じってくる。うつ病など気分障害は有病率が高いために社会的影響が大きく、生涯有病率が1%程度と言われる統合失調症は重症であるために社会的影響が大きい。精神疾患であった場合の影響を考慮し、精神科の診断を再考し、まずは疼痛治療よりも背景にある精神疾患の治療が重要である。高齢の認知症合併例を除外しても、統合失調症では若年症例でも認知機能障害を発症し、うつ病も認知機能が下がるうつ状態がある。精神科診断がはっきりしても、表面に現れている疼痛などの非特異的症状に振り回されずにエビデンスに基づいた治療指針を得るにはガイドラインを用いた治療適応の検討が、患者さんの治療参加、共同意思決定のためには重要である。エビデンスの確立された治療だけでは十分な改善が得られない患者も一定数存在するため、新たなバイオマーカーの確立、診断分類の再考には病態解明研究を継続していく必要がある。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計32件（うち査読付論文 26件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 Junya Matsumoto, Kenichiro Miura, Masaki Fukunaga, Kiyotaka Nemoto, Daisuke Koshiyama, Naohiro Okada, Kentaro Morita, Hidenaga Yamamori, Yuka Yasuda, Michiko Fujimoto, Satsuki Ito, Naomi Hasegawa, Yoshiyuki Watanabe, Kiyoto Kasai, Ryota Hashimoto	4. 巻 Epub
2. 論文標題 Association Study Between White Matter Microstructure and Intelligence Decline in Schizophrenia	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Clinical EEG and Neuroscience	6. 最初と最後の頁 ahead of print
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/15500594211063314	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Norio Yasui-Furukori, Hiroyuki Muraoka, Naomi Hasegawa, Shinichiro Ochi, Shusuke Numata, Hikaru Hori, Akitoyo Hishimoto, Toshiaki Onitsuka, Kazutaka Ohi, Naoki Hashimoto, Tatsuya Nagasawa, Yoshikazu Takaesu, Takahiko Inagaki, Hiromi Tagata, Takashi Tsuboi, Chika Kubota, (26人中21番目) Junya Matsumoto, et al	4. 巻 42
2. 論文標題 Association between the examination rate of treatment-resistant schizophrenia and the clozapine prescription rate in a nationwide dissemination and implementation study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Neuropsychopharmacology Reports	6. 最初と最後の頁 3~9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/npr2.12218	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Daisuke Koshiyama, Kenichiro Miura, Kiyotaka Nemoto, Naohiro Okada, Junya Matsumoto, Masaki Fukunaga, Ryota Hashimoto	4. 巻 43
2. 論文標題 Neuroimaging studies within Cognitive Genetics Collaborative Research Organization aiming to replicate and extend works of ENIGMA	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Human Brain Mapping	6. 最初と最後の頁 182~193
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/hbm.25040	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kazuyoshi Ogasawara, Shusuke Numata, Naomi Hasegawa, Masahito Nakataki, Manabu Makinodan, Kazutaka Ohi, Masahiro Takeshima, Takashi Tsuboi, Naoki Hashimoto, Toshiaki Onitsuka, Hiroyuki Muraoka, Hikaru Hori, Kayo Ichihashi, Takahiko Inagaki, Norio Yasui-Furukori, Akitoyo Hishimoto, (42人中20番目) Junya Matsumoto, et al	4. 巻 Epub
2. 論文標題 Subjective assessment of participants in education programs on clinical practice guidelines in the field of psychiatry	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Neuropsychopharmacology Reports	6. 最初と最後の頁 ahead of print
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/npr2.12245	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Takahashi Junichi, Miura Kenichiro, Morita Kentaro, Fujimoto Michiko, Miyata Seiko, Okazaki Kosuke, Matsumoto Junya, Hasegawa Naomi, Hirano Yoji, Yamamori Hidenaga, Yasuda Yuka, Makinodan Manabu, Kasai Kiyoto, Ozaki Norio, Onitsuka Toshiaki, Hashimoto Ryota	4. 巻 41
2. 論文標題 Effects of age and sex on eye movement characteristics	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Neuropsychopharmacology Reports	6. 最初と最後の頁 152 ~ 158
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/npr2.12163	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Numata Shusuke, Nakataki Masahito, Hasegawa Naomi, Takaesu Yoshikazu, Takeshima Masahiro, Onitsuka Toshiaki, Nakamura Toshinori, Miura Kenichiro, (28人中11番目) Matsumoto Junya, et al	4. 巻 41
2. 論文標題 Improvements in the degree of understanding the treatment guidelines for schizophrenia and major depressive disorder in a nationwide dissemination and implementation study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Neuropsychopharmacology Reports	6. 最初と最後の頁 199 ~ 206
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/npr2.12173	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ito Satsuki, Matsumoto Junya, Sakai Yoshie, Miura Kenichiro, Hasegawa Naomi, Yamamori Hidenaga, Ishimaru Keiichiro, Kim Yoshiharu, Hashimoto Ryota	4. 巻 75
2. 論文標題 Positive association between insight and attitudes toward medication in Japanese patients with schizophrenia: Evaluation with the Schedule for Assessment of Insight (SAI) and the Drug Attitude Inventory - 10 Questionnaire (DAI-10)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Psychiatry and Clinical Neurosciences	6. 最初と最後の頁 187 ~ 188
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.13215	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kunii Yasuto, Matsumoto Junya, Izumi Ryuta, Nagaoka Atsuko, Hino Mizuki, Shishido Risa, Sainouchi Makoto, Akatsu Hiroyasu, Hashizume Yoshio, Kakita Akiyoshi, Yabe Hirooki	4. 巻 22
2. 論文標題 Evidence for Altered Phosphoinositide Signaling-Associated Molecules in the Postmortem Prefrontal Cortex of Patients with Schizophrenia	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Molecular Sciences	6. 最初と最後の頁 8280 ~ 8280
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijms22158280	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hashimoto Naoki, Yasui-Furukori Norio, Hasegawa Naomi, Ishikawa Shuhei, Numata Shusuke, Hori Hikaru, Iida Hitoshi, Ichihashi Kayo, Furihata Ryuji, Murata Atsunobu, Tsuboi Takashi, Takeshima Masahiro, Kyou Yoshitaka, Komatsu Hiroshi, Kubota Chika, Ochi Shinichiro, (28人中22番目) Matsumoto Junya, et al	4. 巻 63
2. 論文標題 Characteristics of discharge prescriptions for patients with schizophrenia or major depressive disorder: Real-world evidence from the Effectiveness of Guidelines for Dissemination and Education (EGUIDE) psychiatric treatment project	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Asian Journal of Psychiatry	6. 最初と最後の頁 102744 ~ 102744
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ajp.2021.102744	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Furihata Ryuji, Otsuki Rei, Hasegawa Naomi, Tsuboi Takashi, Numata Shusuke, Yasui-Furukori Norio, Kashiwagi Hiroko, Hori Hikaru, Ochi Shinichiro, Muraoka Hiroyuki, Onitsuka Toshiaki, Komatsu Hiroshi, Takeshima Masahiro, Hishimoto Akitoyo, Nagasawa Tatsuya, Takaesu Yoshikazu, (30人中20番目) Matsumoto Junya, et al	4. 巻 89
2. 論文標題 Hypnotic medication use among inpatients with schizophrenia and major depressive disorder: results of a nationwide study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Sleep Medicine	6. 最初と最後の頁 23 ~ 30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.sleep.2021.11.005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hino Mizuki, Kondo Takeshi, Kunii Yasuto, Matsumoto Junya, Wada Akira, Niwa Shin ichi, Setou Mitsutoshi, Yabe Hirooki	4. 巻 42
2. 論文標題 Tubulin/microtubules as novel clozapine targets	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Neuropsychopharmacology Reports	6. 最初と最後の頁 32 ~ 41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/npr2.12221	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Onitsuka Toshiaki, Hirano Yoji, Nemoto Kiyotaka, Hashimoto Naoki, Kushima Itaru, Koshiyama Daisuke, Koeda Michihiko, Takahashi Tsutomu, Noda Yoshihiro, Matsumoto Junya, Miura Kenichiro, Nakazawa Takanobu, Hikida Takatoshi, Kasai Kiyoto, Ozaki Norio, Hashimoto Ryota	4. 巻 76
2. 論文標題 Trends in big data analyses by multicenter collaborative translational research in psychiatry	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Psychiatry and Clinical Neurosciences	6. 最初と最後の頁 1 ~ 14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.13311	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kashiwagi Hiroko, Matsumoto Junya, Miura Kenichiro, Takeda Koji, Yamada Yuji, Fujimoto Michiko, Yasuda Yuka, Yamamori Hidenaga, Ikeda Manabu, Hirabayashi Naotsugu, Hashimoto Ryota	4. 巻 147
2. 論文標題 Neurocognitive features, personality traits, and social function in patients with schizophrenia with a history of violence	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Psychiatric Research	6. 最初と最後の頁 50 ~ 58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jpsychires.2022.01.012	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ichihashi Kayo, Kyou Yoshitaka, Hasegawa Naomi, Yasui-Furukori Norio, (37人中32番目) Matsumoto Junya, et al	4. 巻 69
2. 論文標題 The characteristics of patients receiving psychotropic pro re nata medication at discharge for the treatment of schizophrenia and major depressive disorder: A nationwide survey from the EGUIDE project	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Asian Journal of Psychiatry	6. 最初と最後の頁 103007 ~ 103007
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ajp.2022.103007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ichinose M, Miura I, Horikoshi S, Matsumoto J, Osakabe Y, Yabe H.	4. 巻 41
2. 論文標題 Memantine for Behavioral Symptoms of Hepatic Encephalopathy Associated With Alcoholic Cirrhosis: A Case Report	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Clinical Psychopharmacology	6. 最初と最後の頁 85-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/JCP.0000000000001326	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsumoto J, Fukunaga M, Miura K, Nemoto K, Koshiyama D, Okada N, Morita K, Yamamori H, Yasuda Y, Fujimoto M, Hasegawa N, Watanabe Y, Kasai K, Hashimoto R.	4. 巻 740
2. 論文標題 Relationship between white matter microstructure and work hours	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Neuroscience Letters	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.neulet.2020.135428	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Aya Takemura, Junya Matsumoto, Ryota Hashimoto, Kenji Kawano, Kenichiro Miura	4. 巻 49
2. 論文標題 Macaque monkeys show reversed ocular following responses to two-frame-motion stimulus presented with inter-stimulus intervals	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Computational Neuroscience	6. 最初と最後の頁 273 ~ 282
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10827-020-00756-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Koshiyama D, Fukunaga M, Okada N, Morita K, Nemoto K, Yamashita F, Yamamori H, Yasuda Y, Matsumoto J, Fujimoto M, Kudo N, Azechi H, Watanabe Y, Kasai K, Hashimoto R.	4. 巻 738
2. 論文標題 Association between the superior longitudinal fasciculus and perceptual organization and working memory: A diffusion tensor imaging study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Neuroscience Letters	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.neulet.2020.135349	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Iida H, Iga J, Hasegawa N, Yasuda Y, Yamamoto T, Miura K, Matsumoto J, Murata A, Ogasawara K, Yamada H, Hori H, Ichihashi K, Hashimoto N, Ohi K, Yasui-Furukori N, Tsuboi T, Nakamura T, Usami M, Furihata R, Takaesu Y, Iwamoto K, Sugiyama N, Kishimoto T, Tsujino N, Yamada H, Hishimoto A, Nemoto K, Atake K, et al.	4. 巻 74
2. 論文標題 Unmet needs of patients with major depressive disorder - Findings from the 'Effectiveness of Guidelines for Dissemination and Education in Psychiatric Treatment (EGUIDE)' project: A nationwide dissemination, education, and evaluation study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Psychiatry and Clinical Neurosciences	6. 最初と最後の頁 667-669
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.13143	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ichihashi K, Hori H, Hasegawa N, Yasuda Y, Yamamoto T, Tsuboi T, Iwamoto K, Kishimoto T, Horai T, Yamada H, Sugiyama N, Nakamura T, Tsujino N, Nemoto K, Oishi S, Usami M, Katsumoto E, Yamamori H, Tomita H, Suwa T, Furihata R, Inagaki T, Fujita J, Onitsuka T, Miura K, Matsumoto J, Ohi K, Matsui Y, Takaesu Y, et al.	4. 巻 40
2. 論文標題 Prescription patterns in patients with schizophrenia in Japan: First-quality indicator data from the survey of "Effectiveness of Guidelines for Dissemination and Education in psychiatric treatment (EGUIDE)" project	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Neuropsychopharmacology Reports	6. 最初と最後の頁 281-286
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/npr2.12122	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 橋本亮太, 松本純弥, 長谷川尚美, 三浦健一郎	4. 巻 62
2. 論文標題 精神疾患のバイオマーカーを考察する	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 精神医学	6. 最初と最後の頁 875 - 882
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ohnishi, T. Balan, S. Toyoshima, M. Maekawa, M. Ohba, H. Watanabe, A. Iwayama, Y. Fujita, Y. Tan, Y. Hisano, Y. Shimamoto-Mitsuyama, C. Nozaki, Y. Esaki, K. Nagaoka, A. Matsumoto, J. Hino, M. Mataga, N. Hayashi-Takagi, A. Hashimoto, K. Kunii, Y. Kakita, A. Yabe, H. Yoshikawa, T.	4. 巻 45
2. 論文標題 Investigation of betaine as a novel psychotherapeutic for schizophrenia	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 EBioMedicine	6. 最初と最後の頁 432 ~ 446
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ebiom.2019.05.062	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kunii Yasuto, Hino Mizuki, Matsumoto Junya, Nagaoka Atsuko, Nawa Hiroyuki, Kakita Akiyoshi, Akatsu Hiroyasu, Hashizume Yoshio, Yabe Hirooki	4. 巻 9
2. 論文標題 Differential protein expression of DARPP-32 versus Calcineurin in the prefrontal cortex and nucleus accumbens in schizophrenia and bipolar disorder	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 14877
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-019-51456-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ono Chiaki, Yu Zhiqian, Kikuchi Yoshie, Kunii Yasuto, Hino Mizuki, Matsumoto Junya, Nagaoka Atsuko, Ito Junko, Iwasaki Yasushi, Hagihara Hideo, Miyakawa Tsuyoshi, Yoshida Mari, Saito Yuko, Niwa Shin ichi, Yabe Hirooki, Kakita Akiyoshi, Tomita Hiroaki	4. 巻 73
2. 論文標題 Minimal amount of tissue based pH measurement to improve quality control in neuropsychiatric post mortem brain studies	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Psychiatry and Clinical Neurosciences	6. 最初と最後の頁 566 ~ 573
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.12863	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Horikoshi Sho, Kunii Yasuto, Matsumoto Junya, Gotoh Daisuke, Miura Itaru, Yabe Hirooki	4. 巻 40
2. 論文標題 Does Treatment Response With Antidementia Drugs After 6 Months in Alzheimer's Disease Predict Long-term Treatment Outcome?	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Clinical Psychopharmacology	6. 最初と最後の頁 195 ~ 197
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/jcp.0000000000001176	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsumoto Junya, Nagaoka Atsuko, Kunii Yasuto, Miura Itaru, Hino Mizuki, Niwa Shin-ichi, Nawa Hiroyuki, Takahashi Hitoshi, Kakita Akiyoshi, Yabe Hirooki	4. 巻 264
2. 論文標題 Effects of the -141C insertion/deletion polymorphism in the dopamine D2 receptor gene on the dopamine system in the striatum in patients with schizophrenia	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Psychiatry Research	6. 最初と最後の頁 116 ~ 118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.psychres.2018.03.029	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Miura Itaru, Kunii Yasuto, Hino Mizuki, Hoshino Hiroshi, Matsumoto Junya, Kanno-Nozaki Keiko, Horikoshi Sho, Kaneko Haruka, Bundo Miki, Iwamoto Kazuya, Yabe Hirooki	4. 巻 100
2. 論文標題 DNA methylation of ANKK1 and response to aripiprazole in patients with acute schizophrenia: A preliminary study	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Psychiatric Research	6. 最初と最後の頁 84 ~ 87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jpsychires.2018.02.018	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 國井 泰人, 松本 純弥, 長岡 敦子, 日野 瑞城, 丹羽 真一, 矢部 博興	4. 巻 120
2. 論文標題 生前登録制度に基づく精神疾患ブレインバンクの実践 当事者と研究者が協働する研究体制とは	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 精神神経学雑誌	6. 最初と最後の頁 269-276
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本 純弥	4. 巻 75
2. 論文標題 術後せん妄(注意力障害・意識障害)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 臨床泌尿器科	6. 最初と最後の頁 155 ~ 159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11477/mf.1413207188	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本 純弥、矢部 博興	4. 巻 72
2. 論文標題 術後せん妄	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 臨床泌尿器科	6. 最初と最後の頁 315 ~ 320
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11477/mf.1413206275	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三浦 健一郎、松本 純弥、長谷川 尚美、橋本 亮太	4. 巻 54
2. 論文標題 定量精神医学 眼球運動の定量的分析とその精神医学への応用	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 細胞	6. 最初と最後の頁 73 ~ 76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 笠原諭、松平浩、佐藤直子、村上安壽子、島崎勇人、松本純弥、近藤真前、丹羽真一	4. 巻 39
2. 論文標題 慢性疼痛患者の生活史 慢性疼痛とADHDの関連性における考察	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ペインクリニック	6. 最初と最後の頁 1055 ~ 1066
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計102件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 松本 純弥、福永 雅喜、三浦 健一郎、岡田 直大、根本 清貴、藤本 美智子、肥田 道彦、宮田 淳、大井 一高、中瀧 理仁、吉村 玲児、岡本 泰昌、原田 健一郎、橋本 直樹、鬼塚 俊明、山本 真江里、山末 英典、高橋 努、渡邊 嘉之、笠井 清登、橋本 亮太
2. 発表標題 多施設共同研究による統合失調症と双極性障害の大脳皮質構造画像解
3. 学会等名 第16回日本統合失調症学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岡崎康輔、三浦健一郎、松本純弥、長谷川尚美、藤本美智子、山森英長、安田由華、牧之段学、橋本亮太
2. 発表標題 眼球運動と認知機能を組み合わせた統合失調症の検出
3. 学会等名 第16回日本統合失調症学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 長谷川 尚美、三浦 健一郎、松本 純弥、安田 由華、渡邊 衡一郎、稲田 健、橋本 亮太
2. 発表標題 統合失調症の治療に対するガイドライン講習の効果：4年間の経年的変化に着目して
3. 学会等名 第16回日本統合失調症学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 長谷川尚美、三浦健一郎、松本純弥、安田由華、稲田健、渡邊衡一郎、橋本亮太
2. 発表標題 精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果に関する研究（EGUIDEプロジェクト）～処方行動に対する効果の報告～
3. 学会等名 D&I科学研究会（保健医療福祉における普及と実装科学研究会）RADISH第6回学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 「EGUIDEプロジェクト」受講者アンケートの解析から（第2報）
2. 発表標題 小笠原一能, 沼田周助, 飯田仁志, 長谷川尚美, 松本純弥, 三浦健一郎, 尾崎紀夫, 稲田健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太, EGUIDEプロジェクトチーム
3. 学会等名 第18回日本うつ病学会総会/第21回日本認知療法・認知行動療法学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 本山美久仁, 山田恒, 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 稲田健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太
2. 発表標題 精神科レジデントに対する治療ガイドライン教育プロジェクト（EGUIDEプロジェクト）の効果の検討-臨床行動実践度の比較-
3. 学会等名 第18回日本うつ病学会総会/第21回日本認知療法・認知行動療法学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山田恒, 本山美久仁, 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 稲田健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太
2. 発表標題 治療ガイドライン教育プロジェクト（EGUIDEプロジェクト）の効果の検討-ガイドライン講習前と受講後3年間の臨床行動実践度の変化-
3. 学会等名 第18回日本うつ病学会総会/第21回日本認知療法・認知行動療法学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 村岡寛之, 長谷川尚美, 古郡規雄, 福本健太郎, 柏木宏子, 小高文聰, 松本純弥, 三浦健一郎, 稲田健, 渡邊衡一郎, 西村勝治, 橋本亮太
2. 発表標題 EGUIDEデータから、うつ病重症度記載によるうつ病入院患者の薬物療法の変化
3. 学会等名 第18回日本うつ病学会総会/第21回日本認知療法・認知行動療法学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 福本健太郎, 古郡規雄, 村岡寛之, 安田由華, 市橋香代, 飯田仁志, 小高文聡, 越智紳一郎, 長谷川尚美, 松本純弥, 三浦健一郎, 渡邊衡一郎, 稲田健, 大塚耕太郎, 橋本亮太
2. 発表標題 「EGUIDEプロジェクト」うつ病治療ガイドライン適合度を用いた処方評価について
3. 学会等名 第18回日本うつ病学会総会/第21回日本認知療法・認知行動療法学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 飯田仁志, 根本清貴, 長谷川尚美, 沼田周助, 山田恒, 市橋香代, 稲垣貴彦, 小笠原一能, 松本純弥, 三浦健一郎, 川寄弘詔, 稲田健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太
2. 発表標題 うつ病治療ガイドラインに関するWeb講習の有効性の検討～EGUIDEプロジェクトから得られた知見～
3. 学会等名 第18回日本うつ病学会総会/第21回日本認知療法・認知行動療法学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 古郡規雄, 橋本直樹, 長谷川尚美, 沼田周助, 堀輝, 降旗隆二, 飯田仁志, 市橋香代, 三浦健一郎, 松本純弥, 稲田健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太
2. 発表標題 うつ病患者の退院時処方の特徴: EGUIDEデータより
3. 学会等名 第18回日本うつ病学会総会/第21回日本認知療法・認知行動療法学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 安田由華, 稲田健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太
2. 発表標題 うつ病の薬物治療に対するEGUIDEプロジェクトの効果: 2016～2019年の処方調査から
3. 学会等名 第18回日本うつ病学会総会/第21回日本認知療法・認知行動療法学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 降旗隆二, 大槻怜, 長谷川尚美, 坪井貴嗣, 沼田周助, 古郡規雄, 伊賀淳一, 山田恒, 市橋香代, 松本純弥, 三浦健一郎, 稲田健, 渡邊衛一郎, 橋本亮太
2. 発表標題 うつ病入院患者における睡眠薬処方の実態と他の向精神薬処方との関連
3. 学会等名 第18回日本うつ病学会総会/第21回日本認知療法・認知行動療法学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 飯田仁志, 伊賀淳一, 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 古郡規雄, 橋本直樹, 降旗隆二, 坪井貴嗣, 渡邊衛一郎, 稲田健, 橋本亮太, 川寄弘詔
2. 発表標題 日本のうつ病の治療実態と課題
3. 学会等名 第18回日本うつ病学会総会/第21回日本認知療法・認知行動療法学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 橋本亮太, 松本純弥, 長谷川尚美, 三浦健一郎
2. 発表標題 統合失調症のバイオタイプ研究
3. 学会等名 第43回日本生物学的精神医学会・第51回日本神経精神薬理学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松本純弥, 三浦健一郎, 福永雅喜, 岡田直大, 根本清貴, 藤本美智子, 肥田道彦, 宮田淳, 大井一高, 中瀧理仁, 吉村玲児, 原田健一郎, 橋本直樹, 鬼塚俊明, 山本真江里, 山末英典, 高橋努, 笠井清登, 渡邊嘉之, 橋本亮太
2. 発表標題 COCORO (Cognitive Genetics Collaborative Research Organization: 認知ゲノム共同研究機構) による統合失調症の大脳皮質厚・大脳皮質面積のメガアナリシス
3. 学会等名 第43回日本生物学的精神医学会・第51回日本神経精神薬理学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 橋本直樹, 古郡規雄, 長谷川尚美, 沼田周助, 飯田仁志, 市橋香代, 降旗隆二, 堀輝, 三浦健一郎, 松本純弥, 稲田健, 橋本亮太
2. 発表標題 2177名の統合失調症患者の退院時処方についての検討 EGUIDE2016-2018年度調査の結果から
3. 学会等名 第43回日本生物学的精神医学会・第51回日本神経精神薬理学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 柏木宏子, 松本純弥, 三浦健一郎, 福永雅喜, 根本清貴, 岡田直大, 竹田康二, 長谷川尚美, 藤本美智子, 安田由華, 山森英長, 池田学, 渡邊嘉之, 平林直次, 橋本亮太
2. 発表標題 暴力の既往のある統合失調症罹患者の、脳体積、大脳皮質厚および表面積の特徴
3. 学会等名 第43回日本生物学的精神医学会・第51回日本神経精神薬理学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 安田由華, 稲田健, 飯田仁志, 古郡規雄, 堀輝, 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 渡邊衡一郎, 橋本亮太
2. 発表標題 統合失調症薬物治療ガイドラインを用いたエビデンス・診療ギャップの検討について 精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果に関する研究 (EGUIDEプロジェクト) より
3. 学会等名 第43回日本生物学的精神医学会・第51回日本神経精神薬理学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 本山美久仁, 山田恒, 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 渡邊衡一郎, 稲田健, 橋本亮太
2. 発表標題 精神科レジデントに対する治療ガイドライン教育プロジェクト (EGUIDEプロジェクト) の効果の検討 統合失調症薬物治療ガイドラインに沿った臨床行動実践度の比較
3. 学会等名 第43回日本生物学的精神医学会・第51回日本神経精神薬理学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山田恒, 本山美久仁, 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 渡邊衡一郎, 稲田健, 橋本亮太
2. 発表標題 治療ガイドライン教育プロジェクト (EGUIDEプロジェクト) の効果の検討 ガイドライン講習前と受講後3年間の治療ガイドラインに沿った臨床行動実践度の変化
3. 学会等名 第43回日本生物学的精神医学会・第51回日本神経精神薬理学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 安田由華, 渡邊衡一郎, 稲田健, 橋本亮太
2. 発表標題 統合失調症の薬物治療に対するEGUIDEプロジェクトの効果: 2016~2019年の処方調査から
3. 学会等名 第43回日本生物学的精神医学会・第51回日本神経精神薬理学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 三浦健一郎, 松本純弥, 長谷川尚美, 藤本美智子, 山森英長, 安田由華, 橋本亮太
2. 発表標題 認知機能と眼球運動を用いた統合失調症の診断マーカーに関する検討
3. 学会等名 第43回日本生物学的精神医学会・第51回日本神経精神薬理学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 三浦健一郎, 山本哲也, 松田圭司, 松本純弥, 橋本亮太, 小野誠司, 定藤規弘, 福永雅喜
2. 発表標題 追跡眼球運動中の大脳皮質活動特性: 円滑追跡眼球運動と衝動性眼球運動の比較
3. 学会等名 第44回日本神経科学大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 安田由華, 稲田健, 渡邊衡一郎, 橋本 亮太
2. 発表標題 統合失調症とうつ病の薬物治療に対するEGUIDEプロジェクトの効果：2016～2019年の処方調査から
3. 学会等名 第5回日本精神薬学会総会・学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 橋本亮太, 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 安田由華, 稲田健, 渡邊衡一郎
2. 発表標題 統合失調症とうつ病の治療に対するEGUIDEプロジェクトの効果
3. 学会等名 第117回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 降旗隆二, 大槻怜, 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 坪井貴嗣, 沼田周助, 古郡規雄, 伊賀淳一, 山田恒, 市橋香代, 渡邊衡一郎, 稲田健, 橋本亮太
2. 発表標題 睡眠薬処方の実態と多剤処方の関連要因：統合失調症とうつ病患者の処方データの分析
3. 学会等名 第117回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山田恒, 本山美久仁, 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 渡邊衡一郎, 稲田健, 橋本亮太
2. 発表標題 EGUIDEプロジェクトの効果の検討 ガイドライン講習前後の治療ガイドラインに沿った臨床行動実践度の比較
3. 学会等名 第117回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 橋本亮太, 松本純弥, 長谷川尚美, 三浦健一郎
2. 発表標題 データ駆動型解析による精神疾患のバイオタイプとは？
3. 学会等名 第117回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 市橋香代, 姜善貴, 長谷川尚美, 今村弥生, 堀輝, 山田恒, 松本純弥, 三浦健一郎, 古郡規雄, 稲田健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太
2. 発表標題 統合失調症及びうつ病と診断された患者における精神科退院時頓用処方薬の性別及び年代別傾向について：EGUIDEプロジェクトのデータより
3. 学会等名 第31回日本臨床精神神経薬理学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 古郡規雄, 長谷川尚美, 村岡寛之, 三浦健一郎, 松本純弥, 渡邊衡一郎, 稲田健, 橋本亮太
2. 発表標題 EGUIDEにおける治療抵抗性統合失調症の診断記載率とクロザピン処方率の関連性について
3. 学会等名 第31回日本臨床精神神経薬理学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 安田由華, 稲田健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太
2. 発表標題 EGUIDEプロジェクトが統合失調症とうつ病の薬物治療に与える効果の検討
3. 学会等名 第31回日本臨床精神神経薬理学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Miura K, Matsumoto J, Hasegawa N, Fujimoto M, Yamamori H, Yasuda Y, Hashimoto R
2. 発表標題 Combinations of cognitive function and eye movement tests are effective in distinguishing schizophrenia cases from healthy controls.
3. 学会等名 7th Congress of AsCNP 2021 (AsianCollege of Neuropsychopharmacology 2021) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hasegawa N, Miura K, Matsumoto J, Yasuda Y, Inada K, Watanabe K, Hashimoto R
2. 発表標題 The effect of EGUIDE project on medication for schizophrenia and major depressive disorder: from the 2016-2019 prescribing survey.
3. 学会等名 7th Congress of AsCNP 2021 (AsianCollege of Neuropsychopharmacology 2021) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Matsumoto J, Fukunaga M, Miura K, Nemoto K, Okada N, Hashimoto N, Morita K, Koshiyama D, Ohi K, Takahashi T, Koeda M, Yamamori H, Fujimoto oM, Yauda Y, Hasegawa N, Narita H, Yokoyama S, Mishima R, Kawashima T, Kobayashi Y, Sasabayashi D, Harada K, Yamamoto M, Hirano Y, Itahashi T, Nakataki M, et al
2. 発表標題 Cortical structural mega-analysis across four major psychiatric disorders in 5432 individuals.
3. 学会等名 7th Congress of AsCNP 2021 (AsianCollege of Neuropsychopharmacology 2021) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 戸田 亘, 板垣 俊太郎, 大西 隆, 松本 純弥, 三浦 至, 伊藤 浩, 矢部 博興
2. 発表標題 成人期発達障害患者における123I-FP-CITによるドパミントランスポーターの評価
3. 学会等名 第51回日本臨床神経生理学会学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Furihata R, Ohtsuki R, Hasegawa N, Miura K, Matsumoto J, Tsuboi T, Numata S, Watanabe K, Inada K, Hashimoto R
2. 発表標題 Hypnotic medication use and associated factors among patients with schizophrenia- Findings from the 'Effectiveness of Guidelines for Dissemination and Education in Psychiatric Treatment (EGUIDE)' project.
3. 学会等名 20th WPA(World Psychiatric Association) World Congress of Psychiatry (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小笠原一能, 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 尾崎紀夫, 稲田健, 渡邊衛一郎, 橋本亮太, EGUIDEプロジェクトチーム
2. 発表標題 「EGUIDE プロジェクト」受講者アンケートの解析から
3. 学会等名 第17回日本うつ病学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 降旗隆二, 大槻怜, 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 坪井貴嗣, 沼田周助, 渡邊衛一郎, 稲田健, 橋本亮太
2. 発表標題 統合失調症およびうつ病治療における睡眠薬処方の実態と多剤併用の関連要因について
3. 学会等名 第30回臨床精神神経薬理学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 堀輝, 古郡規雄, 伊賀淳一, 越智紳一郎, 鬼塚俊明, 姜善貴, 高江洲義和, 降旗隆二, 村田篤信, 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 渡邊衛一郎, 稲田健, 橋本亮太
2. 発表標題 EGUIDEプロジェクト介入前の抗コリン薬処方調査
3. 学会等名 第30回臨床精神神経薬理学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 安田由華, 稲田健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太
2. 発表標題 統合失調症の薬物治療とうつ病の治療に対するEGUIDEプロジェクトの効果
3. 学会等名 第30回臨床精神神経薬理学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小笠原一能, 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 尾崎紀夫, 稲田健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太
2. 発表標題 診療ガイドライン講習会を受講者はどのように評価し、どのような効果を得たのか?
3. 学会等名 第30回臨床精神神経薬理学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 沼田周助, 中瀧理仁, 長谷川尚美, 枝川令音, 江戸宏彰, 三浦健一郎, 松本純弥, 稲田健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太
2. 発表標題 ガイドラインの理解度向上の取り組み
3. 学会等名 第30回臨床精神神経薬理学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 村田篤信, 古郡規雄, 堀輝, 長谷川尚美, 姜善貴, 高江洲義和, 伊賀淳一, 越智紳一郎, 降旗隆二, 鬼塚俊明, 竹島正浩, 三浦健一郎, 松本純弥, 渡邊衡一郎, 稲田健, 橋本亮太
2. 発表標題 統合失調症患者における抗コリン薬服薬中止達成に関する要因の後方視的解析
3. 学会等名 第30回日本臨床精神神経薬理学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山田恒, 本山美久仁, 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 稲田健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太
2. 発表標題 精神科レジデントに対する治療ガイドライン教育プロジェクト (EGUIDEプロジェクト) の効果の検討-治療ガイドラインに沿った臨床行動実践度の比較-
3. 学会等名 第30回日本臨床精神神経薬理学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 安田由華, 稲田健, 飯田仁志, 古郡規雄, 堀輝, 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 渡邊衡一郎, 橋本亮太
2. 発表標題 統合失調症薬物治療ガイドラインを用いたエビデンス・診療ギャップの検討について 精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果に関する研究 (EGUIDEプロジェクト) より
3. 学会等名 第30回日本臨床精神神経薬理学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 本山美久仁, 山田恒, 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 稲田健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太
2. 発表標題 精神科レジデントに対する治療ガイドライン教育プロジェクト (EGUIDEプロジェクト) の効果の検討-うつ病治療ガイドラインに沿った臨床行動実践度の比較-
3. 学会等名 第30回日本臨床精神神経薬理学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 稲田健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太
2. 発表標題 精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果に関する研究(EGUIDEプロジェクト)
3. 学会等名 D&I科学研究会 (保健医療福祉における普及と実装科学研究会) 第5回学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 戸田亘, 松本純弥, 石井士朗, 板垣俊太郎, 大谷晃司, 青木俊太郎, 三浦至, 志賀哲也, 松本貴智, 菅原茂耕, 山國遼, 箱崎元晴, 渡邊宏剛, 矢吹省司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 加藤欽志, 小林洋, 伊藤浩, 紺野慎一, 矢部博興
2. 発表標題 高齢の身体表現性障害患者における脳血流の変化
3. 学会等名 第116回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松本純弥, 福永雅喜, 根本清貴, 越山大輔, 三浦健一郎, 岡田直大, 森田健太郎, 山森英長, 安田由華, 藤本美智子, 工藤紀子, 笠井清登, 渡邊嘉之, 橋本亮太
2. 発表標題 大脳白質の軸索の髄鞘化、大脳白質の成熟と、認知機能・社会機能の指標である労働時間との関連
3. 学会等名 第116回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 國井泰人, 松本純弥, 泉竜太, 長岡敦子, 日野瑞城, 赤津裕康, 橋詰良夫, 齊ノ内信, 柿田明美, 矢部博興
2. 発表標題 統合失調症脳病態における脂質シグナル伝達の意義-死後脳研究
3. 学会等名 第116回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 國井泰人, 日野瑞城, 近藤豪, 和田明, 松本純弥, 丹羽真一, 瀬藤光利, 矢部博興
2. 発表標題 新規クロザピン結合タンパク質の探索 / チュープリンに対する相互作用
3. 学会等名 第116回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 横倉俊也, 青木俊太郎, 戸田亘, 松本純弥, 大谷晃司, 本谷亮, 上田由桂, 大西真央, 志賀可奈子, 川嶋彩花, 板垣俊太郎, 三浦至, 矢部博興
2. 発表標題 気分障害が併存する慢性疼痛患者に対する集団行動活性化療法の試み
3. 学会等名 第116回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 村田篤信, 長谷川尚美, 山本智也, 三浦拓人, 三浦健一郎, 松本純弥, 古郡規雄, 沼田周助, 鬼塚俊明, 竹島正浩, 稲田健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太
2. 発表標題 精神科領域における薬剤師の関わりの有用性評価を目的とした多施設共同研究
3. 学会等名 第50回日本神経精神薬理学会年会・第42回日本生物学的精神医学会年会・第4回日本精神薬学会総会・学術集会 (NPBPPP合同年会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小宮偉吹, 長谷川尚美, 久保田智香, 三浦拓人, 佐藤英樹, 三浦健一郎, 松本純弥, 坂元竜馬, 村田篤信, 柏木宏子, 坪井貴嗣, 安田由華, 稲田健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太
2. 発表標題 NCNP病院のうつ病治療におけるEGUIDE講習の効果～ベンゾジアゼピン受容体作動薬に着目して～
3. 学会等名 第50回日本神経精神薬理学会年会・第42回日本生物学的精神医学会年会・第4回日本精神薬学会総会・学術集会 (NPBPPP合同年会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 堀輝, 古郡規雄, 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 渡邊衡一郎, 稲田健, 橋本亮太
2. 発表標題 我が国の統合失調症治療における抗コリン薬処方調査: EGUIDE研究から
3. 学会等名 第50回日本神経精神薬理学会年会・第42回日本生物学的精神医学会年会・第4回日本精神薬学会総会・学術集会 (NPBPPP合同年会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 安田由華, 渡邊衡一郎, 稲田健, 橋本亮太
2. 発表標題 統合失調症の薬物治療に対するEGUIDEプロジェクトの効果
3. 学会等名 第50回日本神経精神薬理学会年会・第42回日本生物学的精神医学会年会・第4回日本精神薬学会総会・学術集会 (NPBPPP合同年会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 安田由華, 稲田健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太
2. 発表標題 うつ病の治療に対するEGUIDEプロジェクトの効果
3. 学会等名 第50回日本神経精神薬理学会年会・第42回日本生物学的精神医学会年会・第4回日本精神薬学会総会・学術集会 (NPBPPP合同年会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 沼田周助, 中瀧理仁, 長谷川尚美, 枝川令音, 江戸宏彰, 三浦健一郎, 松本純弥, 稲田健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太
2. 発表標題 統合失調症とうつ病に対する治療ガイドライン教育プロジェクト(EGUIDEプロジェクト)におけるガイドライン理解度向上の取り組みとその結果
3. 学会等名 第50回日本神経精神薬理学会年会・第42回日本生物学的精神医学会年会・第4回日本精神薬学会総会・学術集会 (NPBPPP合同年会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 飯田仁志, 伊賀淳一, 長谷川尚美, 安田由華, 山本智也, 三浦健一郎, 松本純弥, 村田篤信, 稲田健, 渡邊衡一郎, 川寄弘詔, 橋本亮太
2. 発表標題 うつ病のアンメットニーズ 精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果に関する研究 (EGUIDEプロジェクト) から得られた知見
3. 学会等名 第50回日本神経精神薬理学会年会・第42回日本生物学的精神医学会年会・第4回日本精神薬学会総会・学術集会 (NPBPPP合同年会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山田恒, 本山美久仁, 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 渡邊衡一郎, 稲田健, 橋本亮太
2. 発表標題 統合失調症とうつ病治療に対するEGUIDEプロジェクトの効果: ガイドライン講習受講前後の治療行動の変化からの考察
3. 学会等名 第50回日本神経精神薬理学会年会・第42回日本生物学的精神医学会年会・第4回日本精神薬学会総会・学術集会 (NPBPPP合同年会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 柏木宏子, 三浦健一郎, 松本純弥, 坂元竜馬, 竹田康二, 山田悠至, 藤本美智子, 安田由華, 山森英長, 池田学, 平林直次, 橋本亮太
2. 発表標題 暴力の既往のある統合失調症罹患者の、認知機能、精神病理、心理社会的背景の特徴
3. 学会等名 第50回日本神経精神薬理学会年会・第42回日本生物学的精神医学会年会・第4回日本精神薬学会総会・学術集会 (NPBPPP合同年会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松本純弥, 三浦健一郎, 福永雅喜, 越山太輔, 根本清貴, 大井一高, 岡田直大, 長谷川尚美, 山森英長, 安田由華, 藤本美智子, 鬼塚俊明, 高橋努, 尾崎紀夫, 渡邊嘉之, 橋本亮太
2. 発表標題 統合失調症患者と健常被験者における拡散テンソル画像を用いた大脳白質微細構造と認知機能、認知機能障害、労働時間との関連
3. 学会等名 第50回日本神経精神薬理学会年会・第42回日本生物学的精神医学会年会・第4回日本精神薬学会総会・学術集会 (NPBPPP合同年会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松本純弥, 三浦健一郎, 坂元竜馬, 福永雅喜, 越山太輔, 根本清貴, 岡田直大, 森田健太郎, 大井一高, 長谷川尚美, 藤本美智子, 山森英長, 安田由華, 笠井清登, 渡邊嘉之, 橋本亮太
2. 発表標題 統合失調症のbiotypeである認知機能障害と大脳白質統合性の関連
3. 学会等名 第50回日本神経精神薬理学会年会・第42回日本生物学的精神医学会年会・第4回日本精神薬学会総会・学術集会 (NPBPPP合同年会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 三浦健一郎, 松本純弥, 長谷川尚美, 藤本美智子, 山森英長, 安田由華, 橋本亮太
2. 発表標題 眼球運動特徴による自己組織化マップを用いた統合失調症の層別化
3. 学会等名 第50回日本神経精神薬理学会年会・第42回日本生物学的精神医学会年会・第4回日本精神薬学会総会・学術集会 (NPBPPP合同年会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 橋本亮太, 松本純弥, 長谷川尚美, 三浦健一郎
2. 発表標題 治療の指針となる診断法の開発研究の真のゴールとその道のり、シンポジウム1 (指定演題)：精神疾患の画像所見は、臨床診断に使えるようになるのか？
3. 学会等名 第50回日本神経精神薬理学会年会・第42回日本生物学的精神医学会年会・第4回日本精神薬学会総会・学術集会 (NPBPPP合同年会) (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 三浦健一郎, 吉田正俊, 藤本美智子, 山森英長, 安田由華, 長谷川尚美, 松本純弥, 橋本亮太, 竹村文
2. 発表標題 フリービューイング時のマカクサルの視覚探索行動：ヒトとの比較
3. 学会等名 第43回日本神経科学大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hashimoto R, Matsumoto J, Hasegawa N, Miura K
2. 発表標題 Partnering International Consortium:COCORO
3. 学会等名 The ENIGMA Consortium All-Hands Virtual Meeting (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松本純弥 戸田亘 青木俊太郎 板垣俊太郎 三浦至 石井士朗 大谷晃司 橋本亮太 紺野慎一 伊藤浩 矢部博興
2. 発表標題 疼痛と神経科学 疼痛と脳画像研究
3. 学会等名 第49回日本臨床神経生理学会学術大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 戸田亘 松本純弥 石井士朗 板垣俊太郎 大谷晃司 青木俊太郎 三浦至 志賀哲也 松本貴智 菅原茂耕 山國遼 箱崎元晴 渡邊宏剛 矢吹省司 二階堂琢也 渡邊和之 加藤欽志 小林洋 伊藤浩 紺野慎一 矢部博興
2. 発表標題 心因性が疑われる高齢の慢性疼痛患者における脳血流の変化
3. 学会等名 第49回日本臨床神経生理学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 青木俊太郎 戸田亘 菅野和子 大谷晃司 本谷亮 横倉俊也 松本純弥 板垣俊太郎 三浦至 矢部博興
2. 発表標題 疼痛と神経科学 疼痛と認知行動療法の研究
3. 学会等名 第49回日本臨床神経生理学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 青木俊太郎 戸田亘 菅野和子 大谷晃司 本谷亮 横倉俊也 松本純弥 板垣俊太郎 三浦至 矢部博興
2. 発表標題 疼痛性障害に対する集団行動活性化の「痛み度」の変化に関する予備調査
3. 学会等名 第49回日本臨床神経生理学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 板垣俊太郎 戸田亘 松本純弥 大西隆 伊藤浩 志賀哲也 松本貴智 青木俊太郎 三浦至 矢部博興
2. 発表標題 成人の神経発達症のバイオマーカー 発達障害におけるMismatch Negativity(MMN)と脳画像解析の統合の試み
3. 学会等名 第49回日本臨床神経生理学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宇野洋太 工藤紀子 山森英長 藤野陽生 住吉チカ 安田由華 藤本美智子 勝元榮一 佐田あゆ 美 畦地裕統 椎野智子 松本純弥 三浦健一郎 嶋田貴充 片岡譲 高橋潤一 森田健太郎 香月あすか 山本真江里 岡久祐子 肥田道彦 平野羊嗣 牧之段学 中瀧理仁 橋本直樹 大井一高 高橋努 根本清貴 岸本年史 鈴木道雄 住吉太幹 橋本亮太
2. 発表標題 精神疾患における認知機能障害と社会活動時間との関連
3. 学会等名 第5回CEPD研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松本純弥 福永雅喜 根本清貴 越山大輔 三浦健一郎 岡田直大 森田健太郎 山森英長 宇野洋太 安田由華 藤本美智子 工藤紀子 畦地裕統 渡邊嘉之 笠井清登 橋本亮太
2. 発表標題 DTIによる大脳白質の髄鞘化/成熟性の評価と社会機能の指標としての労働時間との関連
3. 学会等名 第3回ヒト脳イメージング研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 青木俊太郎 戸田亘 大谷晃司 本谷亮 横倉俊也 松本純弥 志賀可奈子 七海隆之 板垣俊太郎 三浦至 矢部博興
2. 発表標題 疼痛性障害に対する集団行動活性化療法
3. 学会等名 第10回福島運動器疼痛セミナー
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 橋本亮太 宇野洋太 松本純弥 住吉チカ 森田健太郎 越山太輔 岡田直大 藤野陽生 大井一高 藤本美智子 安田由華 山森英長 住吉太幹 根本清貴 福永雅喜 三浦健一郎
2. 発表標題 精神疾患のバイオタイプの過去・現在・未来への展望 精神疾患のバイオタイプ概説
3. 学会等名 第29回日本臨床精神神経薬理学会・第49回日本神経精神薬理学会合同年会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松本純弥 福永雅喜 根本清貴 越山太輔 三浦健一郎 宇野洋太 岡田直大 森田健太郎 山森英長 安田由華 藤本美智子 工藤紀子 畦地裕統 笠井清登 渡邊嘉之 橋本亮太
2. 発表標題 大脳白質の成熟性と社会機能の指標である労働時間との関連
3. 学会等名 第29回日本臨床精神神経薬理学会・第49回日本神経精神薬理学会合同年会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 一瀬瑞絵 松本純弥 板垣俊太郎 刑部有祐 山本慎之助 三浦至 矢部博興
2. 発表標題 解離性幻聴が強くみられた強迫性障害の一例
3. 学会等名 第115回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 戸田亘 松本純弥 板垣俊太郎 大西隆 伊藤浩 石井土朗 志賀哲也 松本貴智 青木俊太郎 三浦至 矢部博興
2. 発表標題 自閉スペクトラム症の傾向と白質線維束における関連解析の試み
3. 学会等名 第115回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂井美和子 渡部雄一郎 染矢俊幸 荒木一明 澁谷雅子 新里和弘 大島健一 國井泰人 矢部博興 松本純弥 和田明 日野瑞城 橋本健志 菱本明豊 北村登 入谷修司 白川治 前田潔 宮下哲典 丹羽真一 高橋均 柿田明美 桑野良三 那波宏之
2. 発表標題 統合失調症患者の脳内ゲノムにおけるコピー数変異の評価
3. 学会等名 第115回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松本純弥 刑部有祐 戸田亘 泉竜太 一瀬瑞絵 森湧平 板垣俊太郎 三浦至 矢部博興
2. 発表標題 ビフィズス菌整腸剤の過量服薬を繰り返した境界性パーソナリティ障害の一例
3. 学会等名 第115回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森湧平 松本純弥 刑部有祐 堀越翔 戸田亘 浅野太志 板垣俊太郎 三浦至 矢部博興
2. 発表標題 抗アレルギー薬投与を契機に体系的な妄想が出現・持続したパーキンソン病患者の一例
3. 学会等名 第115回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 泉竜太 松本純弥 國井泰人 戸田亘 石井士朗 伊藤浩 三浦至 矢部博興
2. 発表標題 解離性健忘における脳血流SPECT画像の3D-SRT解析における検討 ケースシリーズ
3. 学会等名 第115回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浅野太志 堀越翔 松本純弥 野崎途也 戸田亘 穂積宏俊 三浦至 矢部博興
2. 発表標題 福島県立医科大学附属病院における診療科別の睡眠薬使用状況について
3. 学会等名 第115回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 湯川尊行 岩倉百合子 武井延之 斎藤摩美 渡部雄一郎 豊岡和彦 五十嵐道弘 新里和弘 大島健一 國井泰人 矢部博興 松本純弥 和田明 日野瑞城 入谷修司 丹羽真一 竹内亮子 高橋均 柿田明美 染矢俊幸 那波宏之
2. 発表標題 統合失調症患者における脳内コンドロイチン硫酸鎖の変化
3. 学会等名 第115回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 堀越翔 國井泰人 松本純弥 平尾美枝子 後藤大介 三浦至 矢部博興
2. 発表標題 抗認知症薬の6ヵ月後の治療反応性はその後の転帰に影響するか
3. 学会等名 第115回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 一瀬 瑞絵, 堀越 翔, 板垣 俊太郎, 松本 純弥, 刑部 有祐, 平尾 美枝子, 三浦 至, 矢部 博興
2. 発表標題 うつ状態を呈する医療従事者に対する治療の困難さについて
3. 学会等名 第72回東北精神神経学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 戸田 亘, 松本 純弥, 渡辺 研弥, 刑部 有祐, 山本 慎之助, 志賀 哲也, 上島 雅彦, 三浦 至, 矢部 博興
2. 発表標題 デキサメタゾンの投与中にカルバマゼピンの血中濃度が低下し、てんかん発作が頻発した一例
3. 学会等名 第114回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 戸田, 亘, 松本 純弥, 志賀 哲也, 堀越 翔, 三浦 至, 矢部 博興
2. 発表標題 非定型精神病の発症後長期間経過してからてんかん発作を初発した一例
3. 学会等名 第72回東北精神神経学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松本 純弥, 板垣 俊太郎, 戸田 亘, 三浦 至, 矢部 博興
2. 発表標題 抑うつ気分で発症し認知機能の低下で判明した中枢神経悪性リンパ腫の1例 臓器移植後リンパ球増殖症の精神神経症状
3. 学会等名 第33回日本老年精神医学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松本 純弥, 國井 泰人, 板垣 俊太郎, 刑部 有祐, 志賀 哲也, 三浦 至, 矢部 博興
2. 発表標題 自宅に対するカブグラ妄想を呈した統合失調症の一例
3. 学会等名 第114回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森 湧平, 松本 純弥, 刑部 有祐, 戸田, 亘, 浅野 太志, 三浦 至, 矢部 博興
2. 発表標題 mECTによる抑うつ症状の改善後も食欲不振が遷延したうつ病の一例
3. 学会等名 第72回東北精神神経学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 泉 竜太, 堀越 翔, 國井 泰人, 松本 純弥, 野崎 途也, 一瀬 瑞絵, 穂積 宏俊, 三浦 至, 矢部 博興
2. 発表標題 記憶回復後にSEPCTで脳血流が改善した全生活史健忘の一例
3. 学会等名 第72回東北精神神経学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 浅野 太志, 松本 純弥, 板垣 俊太郎, 刑部 有祐, 戸田, 亘, 森 湧平, 三浦 至, 矢部 博興
2. 発表標題 発症後の社会適応が維持された故に処遇困難となった統合失調症の一例
3. 学会等名 第72回東北精神神経学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 國井 泰人, 長岡 敦子, 日野 瑞城, 松本 純弥, 丹羽 真一, 矢部 博興
2. 発表標題 脳からみた精神科臨床-精神科ブレインバンクへの期待- 精神科臨床と死後脳とを結ぶ研究とは
3. 学会等名 第114回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 泉 竜太、刑部 有祐、松本 純弥、三浦 至、矢部 博興
2. 発表標題 てんかん重積発作後に突然呼吸抑制及び心停止に至ったsudden unexpected death in epilepsy (SUDEP)の一例
3. 学会等名 第30回福島県精神医学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森 湧平、松本 純弥、刑部 有祐、戸田 亘、浅野 太志、三浦 至、矢部 博興
2. 発表標題 精神症状のための身体的治療介入への意向確認に難渋した一例を通じて、精神科患者における 身体的治療に対する同意への考察
3. 学会等名 第30回福島県精神医学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 堀越 翔、國井 泰人、松本 純弥、平尾 美枝子、後藤 大介、三浦 至、矢部 博興
2. 発表標題 アルツハイマー型認知症の長期予後に与えるベースライン時の因子について
3. 学会等名 第30回福島県精神医学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 戸田 亘、堀越 翔、刑部 有祐、松本 純弥、浅野 太志、森 湧平、三浦 至、矢部 博興
2. 発表標題 クロザピン誘発性無顆粒球症を発症した高齢治療抵抗性統合失調症の一例
3. 学会等名 第30回福島県精神医学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 一瀬 瑞絵、堀越 翔、松本 純弥、野崎 途也、刑部 有祐、泉 竜太、穂積 宏俊、三浦 至、矢部 博興
2. 発表標題 肝性脳症後遺症としての攻撃性にメマンチンが奏効した一例
3. 学会等名 第30回福島県精神医学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浅野 大志、堀越 翔、松本 純弥、野崎 途也、戸田 亘、穂積 宏俊、三浦至、矢部博興
2. 発表標題 島県立医科大学付属病院における作用機序別のII唯眠薬使用状況について
3. 学会等名 第30回福島県精神医学会学術大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	戸田 亘  (Toda Wataru)  (00877061)	福島県立医科大学・医学部    (21601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------